

**外国と共同で探索・研究した遺伝資源を活用した品種開発を実現するとともに、海外ライセンスにより世界で販売。得られた利益は遺伝資源国にも分配し、双方win-winの関係を構築し、更なる遺伝資源を入手し、新たな品種開発につなげる仕組みのパイオニア的取組**

## 【法人概要】

日本の種苗業界のトップ企業の一つである当該企業は、花や野菜の種苗の開発・販売を事業の中心に、世界170か国以上に展開。本社の知財戦略方針に基づき国内外の社内関係者と強く連携しながら知的財産を国際的・長期的・多面的に保護、活用

- ・所在地：神奈川県横浜市都筑区  
仲町台二丁目7番1号
- ・創業年：1913年7月
- ・資本金：135億円（令和7年5月現在）
- ・従業員数：3,040人

（令和7年5月現在）



サンパチェンス



商標登録されているロゴマーク

## 【取組・成果のポイント】

- ・育種材料となる遺伝資源の確保は新品種開発には不可欠であるため、資源国の行政機関等と共同での探索・研究を実施。新たにできた品種は、**模倣品対策のため知的財産権で保護するとともに、資源国に対しては、得られた利益の配分**、遺伝資源の探索・評価のノウハウの提供等により**双方win-winの関係を構築し、持続的に新たな遺伝資源を入手し、品種開発につなげる仕組みを創出**。
- ・例えば、花のロングシリーズ「サンパチェンス」の開発では、インドネシア政府機関と共同で探索等を実施。販売にあたっては、継続的に開発される品種を「サンパチェンス」という統一ブランドで展開する戦略をとっており、**国内外で、ブランド名である「サンパチェンス」やロゴマークは商標権、品種は育成者権で保護することで、違法増殖・模倣品を防ぎ、ロイヤルティを確保し、インドネシアに利益を配分**。この取組は、**インドネシアでも高く評価されており、信頼関係を構築**。
- ・この仕組みを支えているのは、グループ全体の知財管理体制。**品種に応じて特許権、育成者権、商標権等を組み合わせる知財ミックスによる保護と、秘密管理ポリシーの共有**に加え、こうした**知的財産に関する知識・考え方をグループ全体で統一するための知財冊子を多言語で作成・配布**。